



Title	言語文化の比較と交流2 まえがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2015, 2014
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54555
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ま え が き

大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻に所属する教員3名が中心となって始まった本共同研究プロジェクトも今年、二年目を迎えた。昨年のメンバーに1名の教員と言語文化専攻博士後期課程に属する2名の大学院生を加え、総勢8名で共同研究を行った。

「言語文化の比較と交流」という名称からも分かるように、専門分野の異なる研究者が大きな枠組みのもとで緩やかに繋がり、それぞれの専門分野に密着しつつも、各自の研究の底流をなす「比較と交流」という視点から、言語文化学に寄与しようとするものである。

本書は、その共同研究の成果を発表しようとするものである。大学院生のメンバーについては、まず口頭発表をしてもらい、それを聞いた教員のメンバー全員が発表者と意見交換を行った。この意見交換に基づいて発表者は論文を執筆したが、教員が草稿に目を通し、様々なコメントを付した上で、最終原稿の提出に至った。すなわち、本書は査読という体制こそ敷いていないものの、それに相当するだけの指導体制のもとで成立したのである。

このような体制下で院生諸氏が発表した成果は以下である：

- ・王貝「『山月記』および『人虎伝』における唐以前の虎の変身譚要素の伝承」では、変身理由や変身前後の状態から見れば、『人虎伝』は後晋以降の虎の変身譚の影響を大きく受けているが、『山月記』には『人虎伝』の影響が見られる一方、変身理由および変身前後の状態の面では、中国唐以前の虎の変身譚からの影響は小さい、と述べられている。
- ・佐古「幕末から明治初期の英文法書にみる概念、文法用語の変遷」は、「英学黎明期」と称される幕末から明治初期にかけて、幕府に献上されたり、刊行されたりした訳述英文法書（英文典）に見る文法用語、概念にまつわる変遷を辿り、わが国の英文法体系の研究について概観している。
- ・聶晶「『夜窓鬼談』における「画中人」物語の改作と展開について」は、『夜窓鬼談』の「画美人」を中心に、この作品がどのように改作され、どのような特徴を持つのか、という一連の疑問を解明した。そのために、作品の内容と描写方法などの側面から比較・分析を行い、この話の源流と成立背景を明らかにしている。
- ・花井「50年前のイギリスの新聞から読み取る日本人イメージ」は、イギリスの代表的な日刊紙 *The Times* が、日本人をどのように描写していたのかを考察し、その日本関連記事の一部を読みながら、同紙の伝える日本人イメージの分析を試みている。

本共同研究プロジェクトが、言語文化学発展に寄与すべく、来年度以降も継続して行われることを期待したい。